

NPO 法人環境市民 理事会 第7期 第10回（通算74回）理事会 議事録

日時：2015年8月24日（月）午後3:00-5:30

場所：環境市民事務局

（以下、敬称略）

出席理事：有川真理子、上田正幸、下村委津子、杵本育生、瀬口亮子(skype)、
原田紀久子、松田直子

出席監事：中村公明、吉井英雄

事務局：風岡宗人、佐藤寛也、野村哲司

委任状提出者

議長委任：植田和弘、竺文彦、花田真理子、牧村好貢

原田理事に委任：白石克孝、早瀬昇

議長：松田直子

議事録係：佐藤寛也

議事録署名人：上田正幸、原田紀久子

■ 討議事項

- 1) 下半期の収支計画および活動計画修正案（要承認）
 - ・2015年度 下半期収支および事業計画修正案（資料1）
 - ・下半期収支計画修正案（資料2）
- 2) 京都地域創造基金からの借り入れの検討（資料3）
- 3) 今後のスケジュール
- 4) 第8期（2015年度 2017年度）代表理事の選任（要承認）

■ 決定事項

- 1) 下半期の収支計画および活動計画修正案（要承認）
 - ・2015年度 下半期収支および事業計画修正案（資料1）
 - ・下半期収支計画修正案（資料2）

◎現事務所よりも安い場所への引っ越しについて

賛成：7人＋委任6人

引越しをすることに決定。

※ひとまち交流館への申し込み 2 か月前にする必要があるのですが、手続きは開始するが、引っ越し先はまだ決定していない。引っ越し先候補を多面的に検討し

て結論を得るようにする。

◎ニュースレターPDF 会員増・マガジンの休刊

賛成：7人＋委任6人

ニュースレターはPDF 配信への切り替えを会員に打診する。

マガジンは休刊とする。

それに代わる会員への情報提供方法は、マンパワーの配分を十分考慮して検討する。

◎固定管理費削減案について

賛成：7人＋委任6人

引越しをすることに決定。

※ひとまち交流館への申し込み 2 か月前にする必要があるので、手続きは開始するが、引越し先はまだ決定していない。引越し先候補を多面的に検討して結論を得るようにする。

◎人件費削減案について

プラン B' が良い 6名（1名棄権）＋委任6名

※プラン B' の内容について検討を行う。

◎業務委託費の削減について

委託取りやめとする 7名＋委任6名

2) 京都地域創造基金からの借り入れの検討（資料3）

金融機関からの借り入れの可否については、次回理事会での決定事項となる。その際、返済は代表が個人で保証することを前提に検討する。

3) 今後のスケジュール

次回9月中旬に理事会を開催。

もっとブラッシュアップしたキャッシュフローを描く。

事業をどう削るかを考える。

今後の作業

- ・ オフィス移転 物品処分 リース品をどうするか確認。
- ・ 会計ソフトの導入。

- ・ 定期的な会計のチェックが全然できていない。今後、その辺りをきちんと作る必要がある。
- ・ マガジン休刊のお知らせをする。
- ・ 回復プログラムをどうするのか。解散を含めて検討をしていく。

4) 第8期(2015年度2017年度)代表理事の選任(要承認)

当面は、杵本代表が継続するが、それで確定とせず、次世代リーダーの育成を視野に置いて共同代表の選任も引き続き検討する。

賛成：7人＋委任6人

■ 発言録

有川により今年度予算について説明があった。(資料参照1)

数ヶ月が経過し、いくつか金額が大きく、取れないあるいは実施中止の事業がある。(環境首都コンテスト、交野市関連等)それを修正した。

クリーム色がついているものは、まだ未定。

講演事業も、今のペースで予算を満たすのは難しい。

一般寄付収入も、例年通りに下方修正。

修正後で、約150万円の赤字が見込まれる。

今日は、予算のための議論をしていく。

削減案の内容(資料1参照)

背景としては赤字決算の見込み及び運転資金の短期的ショート。

短期的ショートを借り入れでしのぐには、キャッシュフロー作成が必要。

8月21日に、原田、早瀬、白石の各理事と事務局で集まり、議論を経て今日に至っている。

収入の予定がないので、固定費を削る必要がある。

家賃は現在、年180万円かかっている。

移転候補は、ひとまち交流館のNPOシェアオフィス。(5000円/デスク)

他、シェア募集中のNPO等。

今日は、安いところに引っ越すことについて、ご判断をいただきたい。

ちなみに、現在の事務所の契約は、10月末に契約終了で更新料が1ヶ月分。

2ヶ月前予告なので、8月末に予告が必要。今日、判断したい。
もう一つはマガジンの休止。
そして、ニュースレター（NL）の郵送停止。NLは、基本的に電子媒体に変える。

削減プラン詳細については、資料1及びその補足資料を参照。

プラン A

11月からスタッフのアルバイト・給与を削減。
これを地球環境基金の範囲内に収める。
補足資料の通りになると環境市民からの人件費は3万円のみとなる。
これは2015年度に限っての提案であり、それ以降はまったく考えられていない。

原田：人件費の削減について補足を。

有川 週5→2、風岡 週4→2、佐藤 週2.5→2 野村 週3→2となる。
スタッフの労働力は半分になる。
これと合わせ、事業をどう削減するのかの議論が必要。

杵本：労働力が半分ではない。

現在、杵本、下村がボランティアでフルタイム働いておりそれは変わらない。

有川：事業の削減検討はこれからするところ。

以下有川説明に戻る。

プラン B

このプランでは、他の費用は削るが、人件費は削らない。

業務委託費について

現在会計事務所に頼んでいるのを取り止めて、会計ソフト導入により自前でやる。

予算収支について（資料2参照）

これは、現在決まっているもの以外は外した予算書。
その数字を見て欲しい。

年間予測の収入の右に並ぶ3つの項目は支出の3プラン。

会費、入会金、寄付金について

多めに見込んでいたものを、昨年ベースの金額に下方修正。

事業について

グリーンウォッシュについては、積水ハウスでの講演のみに下方修正している。持続可能な消費の支出には、事業のアルバイト代としてスタッフに払う人件費が含まれている。

環境マイスターが寄付金と事業の2か所に計上されているのは、お金の流れが2種、ひとつは環境市民がお金をもらうケース、もうひとつは講師が直接お金をもらい一部を寄付するケースがあるため。

首都創造ネットエネルギーワーキングの30万円は、新規に白石理事が大学から環境市民に仕事を依頼できる分を追加計上。

講師派遣は、現状に近い、月2回のペースとして、下方修正。

公共団体等助成金について

パナソニックからの150万円は12月までの確定している分。

現在申請中のものが通ると来年1~3月分で50万円アップするが、3年目の申請は難しいと言われているので計上していない。

給与について

現状維持案は、現在の給与ベース。

プランAについては、給与を徹底削減。197万円に修正。

杵本

通勤交通費については、昨年ベースで入っているが、昨年は受けとった金額を寄付している。現状から少し数字が変わるだろう。

有川

労働保険料、社会保険料は、プランAの場合削減される。

通信費は、現状維持の場合81500円/月。PDF会員を増やした場合に少し減るはず。

原田

通信費は計算からすると、77万円くらいまで減る。

消耗品費について

地球環境基金から事務管理費で取れる部分を計上している。

賃借料について

現状維持案は、今のオフィスにいる場合。

プランA、Bは、ひとまち交流館で月1万円（2デスクの場合）。

機械リース料について

コピー機、電話機は解約した場合、リース残が発生するので、払い続けるという計算をしている。コピーは残り2年半くらい。電話機は残り5年くらい。

プランA、Bは、特別損失として、引越費用を10万円計上。

同時に、現事務所の保証金は7割にあたる50万円が雑収入として計上されている。

プランBの場合、大々的な寄付キャンペーンが必要。

2013年に緊急寄付をやっているのだから、やるならば、単に現状を維持したままの組織の存続だけではない説明が必要。

また、理事の方にも、寄付募集等の負担をお願いすることになる。

寄付キャンペーンの際には、通常寄付が減るのを考慮して、目標額は200万円程度の見込み。

借り入れについては、利子のかからない300万円未満を想定。

赤字続きなので、審査は厳しくなるだろう。

杵本

この借り入れについては、ランニングの短期なので、杵本が保証する。

有川

金融機関からの借り入れの可否については、次回理事会での決定事項としたい。

その際、返済は代表が個人で保証することを前提に検討したい。

質疑応答

原田

融資を受ける事業費について、片方（NGO ネット）は外部団体だが大丈夫か？

杵本

実質的には環境市民が立て替えている状態なので大丈夫だろうが、確認が必要。

原田

地球環境基金の概算払はできないのか？

杵本

基本的にはしていない。

原田

地球環境基金で、環境市民が NGO ネットを立て替えているのは人件費？

杵本

すべての経費。

上田

借りる期間は？

杵本

地球環境基金から入る4月まで。

原田

借りるために必要なリードタイムは？

有川

1ヶ月程度の見込み。ただし、赤字続きなので延びるかもしれない。

中村

返す時期は。

有川

4月の一括を想定。

原田

借り入れはいつ決める？

有川

次回9月の理事会で。今回の理事会では予算修正を主に決定したい。

杵本

マガジンは費用がかさんでいて経費的には削減対象だが、定期購読者には謝罪と返金が必要。会員にも謝罪が必要だろう。

マガジンは、現在、内容的には評価されているが、この状況ではしんどいか。

原田

マガジンの年間購読者は？

佐藤

10名くらい。

杵本

マガジンとは違う形での情報提供を考えられないかということを考えている。

瀬口

FoEでも単年度赤字が数年続いた際に、大きなリストラをした。

環境市民ももっと早く着手すべきだったと思う。

現状プランで、人件費を削る場合に、有川、風岡の人件費を半分以下にする場合、有川、風岡が担う事業も半分以下にするのか。

環境市民は、所帯数の割に活動が多すぎる。その絞り込みが必要では。

対外的にコミットしている事業以外は、すべてやめるくらいの思い切りも必要では。

杵本

そう考えている。

瀬口

寄付キャンペーンは難しいのでは？

「団体が潰れそうだから」という名目では、お友達ベースならいけるかもしれない。しかし、それ以外に訴求できる、この活動を支援したいと思ってもらえる理由が必要では。

また、緊急寄付を毎年やるもの問題がある。

杵本

それはやらない方向で考えている。

訴える方向性は決めなければいけない。

瀬口

他団体に比べて、会費が低い。

会員は、支援してくれている人たち。

もっと会費の額をあげるのを検討しては？

原田

金曜日に議論した理事は、瀬口さんと同意見。

風岡、有川の人件費は減らさないで欲しいといった。

瀬口

そういう意図でなく、人件費削減はやむを得ないが仕事をきちんと減らすべきという趣旨。

原田

確かに現在、事業の整理ができていない。

人件費だけが減るといった状況が想定されるのは良くない。

瀬口

人件費と労働時間を減らすのは止むを得ないのでは。

原田

現在の業務量を考えると給与がすでにかなり低い。

これをさらに削減した際に、事業が減る姿が見えない。

そうになると賛成しにくい。

瀬口

マガジンに代わる新しい発信等は、今は考えなくても良いのでは。

杵本

半分ボランティアでやっている事業を減らしていくのが必要。

瀬口

メインはお金よりも、どこで仕事量を減らすかだろう。

また、給与削減は働いている人のモチベーションダウンも考慮しないとイケない。

杵本

来年4月以降については、次回以降、きちんと考えていかないといけない。

原田

ここまで来るまで、突っ込めなかったのは理事全体の責任として、考えないとイケない。

次の体制を考える際、現経営陣がそれなりに責任を取った上で、お金を集めることが必要だろう。

杵本

しかし、一方で私たちが今やめたら、組織自体が終わるだろう。

原田

杵本さんだけでなく、経営陣全体で責任をとるという話。

杵本

ひとまち交流館に引っ越しの場合だが、現事務所にある書類の大半はもっていけなくなる。また引っ越し作業量も多くなる。

他では、京都グリーンファンドの部屋を4席借りるという話もある。

あるいは、現在借りているビルの206号室が月末に空く。そこだと、今の半分程度の広さで、家賃は6万円程度になる。住所等の張り替えは必要なくなる。

中村

引越しの場合、コピー機をどうするのか？リース物件の場合、管理がきちんとしていることを求められる。どうするのか。

有川

現状では検討できていない。どこかに預かってもらうか。

杵本

リース物件を預かってもらうことが現実的に可能なのか。

原田

しかし、資金繰りを最優先で考える場合、場所代より人件費では。

有川

今日は現事務所を引き払うことまで決めれば、引越し先は後で検討が可能。

ひとまち交流館は2ヶ月前に申請して、後で検討してはどうかと思う。

発言していない理事の意見をお聞きしたい。

上田

ひとまち交流館は、現実的ではないだろう。

ここの2階というのは良いアイデアだと思う。人件費は切らない方が良くだろう。

基本は収入のアップを考えないといけない。具体的な動きがないのはなぜか。

下村

事業の整理が必要だろう。また、寄付キャンペーンのデザインが必要だろう。

信頼を勝ち取るようなキャンペーンデザインが必要。

現状、必死さ加減が足りない。やるべきことができていないのでは。

4月以降の展開をどうするのかにより、場所はどこが良いのかが決まるだろう。

自治体からの信用等でやっている事業もある。

あどぼの学校など外部団体と連携している事業もある。

外部からの信用、契約を取るには、ひとまち交流館はきびしいのでは。

環境市民としての情報提供は続けないといけない。

ラジオチームの活動には、この場所の方が便利だろう。

現在は、ゲストに環境市民のファンになってもらうためにも、あえてラジオの現場でなく、事務所で打ち合わせをしている。それも難しくなる。

原田

全員にとって便利な場所はないだろう。

佐藤

キャンペーンがきちんとできていない背景には、現状で業務量が過多になっていることがある。

これ以上人件費を削って、同時にキャンペーン等を充実されるというのはできないのでは。人件費をできるだけ残すべきなので、ひとまち交流館を選ぶべきだ。

瀬口

家賃か人かの二者択一ではない。家賃を削るのは同意できているのでは。

風岡（参考意見）

ひとまち交流館に移転するかについて、リース解約可能かなど、情報が不足している。

人件費を削るのは止むを得ないだろう。今年度の助成事業については責任を持ってやるつもりだが、それ以降は家庭を維持するためにも、他の仕事をしなければいけない。そうなれば、ボランティアでやれることは限界がある。

瀬口

地球環境基金以外での人件費の確保は？

風岡（参考意見）

Panasonic 等で確保しているものはあるが、それが直接支払われるわけではない。

松田

決めるべきことが多数ある。

ひとまち交流館について、賛成の方と反対の方がいる。

個人的にひとまち交流館入居団体の審査をしているが、基本的に環境市民のようなところは想定していない。また、引越しで一時的に事業が止まるのが気になる。

杵本

確かに忙しい時期だ。

しかし、更新時期でもある。

松田

今日は、取り敢えず引っ越すという点についてのみ決めることでどうか。

吉井

私はもっと本質的な部分、会を存続させるか検討しないといけないと考えている。

潰すにしてもお金が必要。それを考えると既にタイムリミットでは。後半年や1年で何か新しいものを捕まえることができるのかを考えないといけない。

中村

早く見切りをとまでは、考えていない。

かなり危機的状況なので、根本的な治療が必要ではある。

吉井

私は借り入れも反対。外部の人を巻き込むと話が複雑になる。

内部からお金を出すのでは。

杵本

解散等も含めていくつかの案を出して検討する必要がある。

吉井

自治体からの受託事業が支えになっていたのが止まったのが痛かった。

杵本

自治体というよりも、地球環境基金の講座がなくなったことが痛かった。

松田

時間が迫っている。この事務所をでることについて採決を。

賛成：7人＋委任6人

引越しをすることに決定。

※ひとまち交流館への申し込み2か月前にする必要があるなので、手続きは開始するが、引っ越し先はまだ決定していない。引っ越し先候補を多面的に

検討して結論を得るようにする。

マガジンの発行一時休止について（今後は要検討）

下村

会員のみなさまや定期購読者への対応が重要。

前号では次号の案内もしているなので、そのあたりのフォローも必要だ。

原田

郵送を基本とせず、「PDF 配信します。郵送の欲しい方は連絡を」という形にしては。

瀬口

印刷をしなくても、経費として人件費がかかることを忘れてはいけない。

PDF にしても、編集とデザインが必要だろう。

NL どうするかを含めて考えては。

有川

金銭的には印刷とデザインが大きい。

また編集作業も、労働時間としてかなり負担が大きい。

他の媒体を使うことを考えてはどうか。

既存の発信力ある媒体に寄稿して、インフルエンサーを目指す手もある。

瀬口

今は外部の人へ頼み、原稿料も無料をお願いしている。

そういう形ではなく、内部の人が情報を出すという形を目指すべきだ。

原田

情報を出してどういう影響を出したいかが重要。

その辺りを含めて手段を検討しては。

下村

即時効果と副次的効果があるのでそれも検討を。

松田

1 1月号については、前号で休刊の予告をしていないのを考えると、もう一
号だけ出すという選択肢もありうる。

もう少し検討しないといけない。次回までさらに検討を。

採決

ニュースレターは PDF 配信への切り替えを会員に打診する。

マガジンは休刊とする。

それに代わる会員への情報提供方法は、マンパワーの配分を十分考慮して検討
する。

賛成：7人＋委任6人

人件費について

これは意見が分かれている。要検討するか。

有川

今後のプラン等や、融資を受けるための削減案も関わってくるのでもう少し
議論を深めていただきたい。

杵本

事業スタッフの分は減らしたくない。

しかし、今まで通りとはいかないだろう。もう少し検討しないといけない。

風岡（参考意見）

スタッフの立場から言わせてもらおうと、中途半端な雇用はかえって今後の職
業選択の支障になる可能性があることも考えていただきたい。

有川

しかし、削減するなら、プラン A のあたりまで削減してもらえないと他の仕
事との掛け持ちがしにくい。

原田

NPO には、企画とロジが必要。ロジの部分がこの削減案で担えるのか。

下村

プラン A の場合、4月以降はどうなるのかというのものもある。

有川

4月以降について、この数字で働くということは考えていない。
3月末までの暫定措置と考えている。

原田

プラン B' (プラン A と B の中間) を作るのが良いのでは。
有川、風岡については人件費を維持。他は検討をしてはどうか。

上田

同意見。

瀬口

同意見。ただし、本人たちがどうしたいのかを尊重すべきだ。
立ち上げている消費者ネット、NGO ネットは、どうするのとも考えないとい
けない。

風岡 (参考意見)

人件費は有川、風岡に加え、佐藤も議論に加えてほしい。日常の作業で佐藤
なしでは回らない状態になっている。

原田

融資のためのキャッシュフローを決めないといけない。

松田

プラン A にするのだったら団体の存続自体を考え直した方が良い。
プラン B' ありきだろう。

採決

プラン B' が良い 6名 (1名棄権) + 委任6名
※プラン B' の内容について検討を行う。

業務委託費の削減について

松田

問題ないだろう

採決

委託取りやめ 7名+委任6名

2) 京都地域創造基金からの借り入れの検討 (資料3)

今回は説明のみ。採決は次回理事会で。

3) 今後のスケジュール

次回9月中旬に理事会を開催。

もっとブラッシュアップしたキャッシュフローを描く。

事業をどう削るかを考える。

今後の作業

- ・ オフィス移転 物品処分 リース品をどうするか確認。
- ・ 会計ソフトの導入。
- ・ 定期的な会計のチェックが全然できていない。今後、その辺りをきちんと作る必要がある。
- ・ マガジン休刊のお知らせをする。
- ・ 回復プログラムをどうするのか。解散を含めて検討をしていく。

質疑等なし

4) 第8期(2015年度総会~2017年度総会)代表理事の選任(要承認)

下村

前から杵本代表の希望していた共同代表制の検討を。

原田

共同ではなく、有川さんが、単独で代表になってはどうか。

下村

いまの厳しい状況で引き渡すのは酷では。

松田

ユニークで良いアイデアだとは思う。

上田

代表になるとお金を借りるときの保証人になる必要がある。
そこが厳しいのでは。

杵本

あと1期私があるいは誰かと共同でやって、次期から他の人に変わってはどうかと考えている。

原田

杵本さんは代表でなくしても、有名であり仕事も取れる。
また、代表でなくなっても、一定の責任を取るだろうと思われる。
新しい人にバトンタッチしてはどうか。
今のままでは、杵本さんに頼っており、杵本さんも若い人の意見を汲めていないところがあるのではないか。変えてはどうだろうか。

杵本

そのように言われるとやる気が無くなる。

下村

みんな、やめるかもしれないと言っているときに、有川さんを代表にするのはどうかと思う。負担が大きすぎるのでは。

原田

年齢的にもそのくらいの責任をとってもらっても良いのでは。

瀬口

有川さんに、他の形の権限をもたせてはどうか。

松田

時間になったのでそろそろ収束に向かいたい。

下村

現在、確かにチーフコーディネーターの権限は小さい。
私は杵本さんが若い人の話を却下するという状況には無いように思う。
案を否定しているのではなく、対案をだせといっているだけである。

杵本

全部、頭から否定はしていない。
コミュニケーション不足ではあるが。

原田

権限とともに責任を委譲するのが良いのでは。

杵本

本人の意思もあるだろう。
代表になれば、まだ定まっていない4月以降にも、頻繁に事務所に来る、ということになる。私としては、いますぐにでも代表を降りる意思はあるが、現在の困難な状況を前に降りるのはあまりにも無責任と考える。今期までは代表を続けるが、それ以降はどなたかに代わっていただきたい。

有川

私としては、代表になるのは想定外だ。
代表交代より組織内の役割等をもっと整理した方が良いように思う。
杵本さんが担うべき役割を整理する必要がある。

原田

収支の管理は、代表理事がきちんとしなければいけない。
収支についても、若い世代で責任を取る体制が必要では。

杵本

当面、私が代表理事を続けるが、必要であれば共同代表も検討していくということではいかがか。

採決

当面は、杵本代表が継続するが、それで確定とせず、次世代リーダーの育成を視野にいれて共同代表の選任も引き続き検討する。

賛成：7人＋委任6人

■確認事項

次回の理事会

時期：9月上～中旬

議題：借入りの件（要承認）

回復プラン検討